

令和6年度第5回柏市教育政策審議会会議録

1 開催日時

令和6年12月26日（木）

午後10時から午後12時まで

2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

天笠会長，寺本副会長，中田委員，伊藤委員，藤崎委員，川本委員，遠藤委員，青木委員，入道委員，少路委員，神田委員，古橋委員，阿部委員（計13名）

(2) 事務局

田牧教育長，原田教育総務部長，籠教育総務課長，松澤教育総務部次長兼教育政策課長，田村教育政策課副参事，柳澤教育政策課副主幹，布施教育政策課主査，平川教育政策課主事，加藤教育政策課教育専門アドバイザー，大滝教育施設課副参事，中村教育総務部次長兼学校給食課長，佐藤学校給食センター所長，宮本生涯学習部長，竹内生涯学習課主幹，原学校教育部次長兼学校教育課長，渡辺学校財務室長，福田教職員課長，平野指導課長，石井児童生徒課長，金岡教育研究所長，幕内市立柏高等学校事務長（計21名）

4 教育長のあいさつ

5 前回審議会の振り返り

会長進行のもと，資料3に基づき，前回審議会の会議録について確認し，全会一致で承認された。

6 本日のスケジュールについて

資料4に基づき，本日の審議会の位置づけ及び議題を確認した。

7 議事（基本方針答申第2案）について

事務局より資料8に沿って基本方針答申第1案からの主な修正点を説明したのち、審議を行った。

《以下、委員からの意見及びそれに対する事務局からの回答》

(1) 本編について

（天笠会長）

基本方針は3部構成になっていますので、区切って議論を進めます。まず初めに本編から始めます。

（天笠会長）

資料の黄色の箇所は前回会議での委員の御意見を踏まえて修正したものです。再度、それぞれの内容を確認いただきながら審議会の成案としていきたいと思っています。

1 ページ、2 ページについては、資料の通りとなっています。

3 ページは、柏市のこの先の姿、その一端を示したらどうかという意見に基づき修正したものです。この点について、御意見ありますか。人口5万人が43万人となった大きな歴史、こういう歩みをした柏市ならではの推移などが示されています。

また、ウェルビーイングが国の教育振興基本計画に盛り込まれているわけですが、5 ページには、柏市でどのように理解していくか、学校教育でどのように実現していくか、を取り上げており、このことが6 ページで目指す子ども像の説明につながっています。地域との関わりを通じて成長してほしいという私達の願いを込めて、子どもたちの身近な社会である「かしわ」の言葉が入れられています。

7 ページは目指す学校教育についてです。義務教育9年間でトータルで捉え、連続性・系統性を確保した学びを実践するとともに、幼保こ小の連携と中高の連携を強化し、学びの接続期において滑らかなつながりを目指すとしています。それをより具体的な方策として示したものが8 ページになります。

12 ページは「個別最適な学び」と「協働的な学び」についてですが、昨日、国から学習指導要領の改訂に向けた諮問がありました。その中では、自己調整といった学習の在り方を深めていくことが検討事項として示されていました。これから国でも議論が進みますが、

学校で授業なさる先生方にとっても大切な部分にもなってくると
思います。

14・15 ページで示すいじめの扱いについては、どう位置付けるか、
安心安全な居場所づくりといじめとの関係をどう捉えるかは大きな
課題となっています。

18・19 ページは、コミュニティ・スクールと柏市の高校の魅力化
について、また、22・23 ページは、学校の環境についてです。個別
でも全体を通してでもよいのでお気づきの点や感想をいただきたい
と思います。

（中田委員）

流れが非常によくわかる基本方針になっていると思います。6，
7 ページの書きぶりは学校現場へのメッセージ性があると感じまし
た。「よりよい自分」「よりよい“かしわ”」といった子供でも分かる
言葉を用いており、柏市全体として大きなものを目指しながら、自
分の学校ではどうするかを考えやすいメッセージと捉えました。

（遠藤委員）

学びの連続性が強調されるなかにおいて、中高のつながりも加え
られてよかったと思います。

（天笠会長）

市立柏高等学校の魅力化について、もう少し触れてほしい等あり
ますか。

（遠藤委員）

義務教育に係る部分がメインかと思いますが、ボリューム感と
しては、現在のとおりで問題ございません。

（藤崎委員）

これまでの審議内容が反映されていてわかりやすい表現になって
いると感じました。12 ページの主体的な学びというところで、会長
からも自己調整という言葉がありましたが、個別最適な学びが難し
いお子さんもいるなかで、そのあとに特別支援教育の推進が記載さ

れていることは資料の流れとして良いと思いましたが、具現化されるように現場で取り組みたいと思います。

（川本委員）

学校も含めて全体が目指すものとしては、分かりやすく素晴らしい内容だと思いますが、内容的にお願いしたいものがあります。10ページの具体的な取組について、乗り入れ授業などを令和7年度から推進していくとあります。これらについては、現場も努力しなくてはいけないと思っています。取組自体への異論はないのですが、条件的に整えていただきたいたいところもあります。例えば、小中学校区の問題もありますし、小学校、中学校の組み合わせの問題や、中学校から小学校に教員が英語の授業に出向くことで、中学校の教員の負担が増えるといったことも考えられます。

また、市内一律でできないのは、小中学校区が一致していなかったり、学校間の移動にかかる距離等もあるかと思います。色々なことを踏まえて、時間をかけて土台を築いていただきたいたいと思います。

（伊藤委員）

前回審議されていた学びの連続性がわかりやすく修正されていて、学校関係者だけでなく、保護者や地域の方がみても、柏市が子どもたちをこう育てていくということがわかると思います。不登校やいじめの問題も前回より充実されていて良くまとまっていると思いました。

（天笠会長）

保幼小の連携について、小学校の立場からどう思いますか。

（伊藤委員）

7ページのところですが、義務教育9年間だけでなく、幼保こ小を含めた学びをつなぐという記載になっているので良いと思います。

（青木委員）

近年、柏市 PTA 連絡協議会を抜ける学校も増えてきています。18 ページでは地域と一緒にみんなで進めよう、と言っているにも関わらず、保護者の方の負担を減らすことに重きを置いている動きだと感じます。例えば、コミュニティ・スクールはみんなで進めていくのに、保護者が PTA を抜けて地域任せとなっている状況がみられます。通学路のパトロールも地域のシニアの方がやってくださっているのに、PTA が解散するのはどうなのかなと思っています。私自身余裕がないときには PTA 活動が負担だと思っていましたが、実際やってみると、大変ではありますが、コミュニケーションをとるためには存在していてもよいのではと思っています。コミュニティ・スクールを活性化させるためにも、PTA の存在だけは残すとか、地域のみで地域を盛り上げて、子ども達が将来また柏に戻ってきたいと思えるような昔の柏の良さを継続できたらいいのではないかと思います。

（天笠会長）

今の御発言から 6 ページについてコメントはありませんか。ここで文言化しているつもりですがどうでしょうか。

（青木委員）

親の立場からすると自己肯定感を高めるという文言は響くものがあります。柏に住んで、柏に戻ってくる人が多いことやお祭りが盛んなことに驚きました。高齢者の方も含め、地域の方が必死になって毎年様々なイベントを続けてくださっているところが柏の良さだと思うので、“かしわ”という文言が入っているのが良いと思いました。

（入道委員）

18 ページにコミュニティ・スクールのことが書いてありますが、今後新しい学校づくりが進んでいく時まで、学校運営協議会が続いていくことはありがたいことだと思います。せっかく始めた各学校の取組が、それぞれの地域ですずっとつなげることを望みたいと思います。自分が行っている学校運営協議会も地域とのつながり大切に

しながら，次の世代につなげていくようにしていきたいと思いました。文面的にはまとまっていて良いことが書いてありますが，実現するには難しいこともあります。PTAとのつながりが大変なところもあります。自分に取り組んでいくにあたって将来につながるように実施していきたいと思いました。

（少路委員）

全体的に分かりやすくまとまっていると思いますが，地域で色々行っていると実現に向けて大きな問題があると思いますので，実現のための努力が必要です。学校と地域は分断されているように感じるので，連携を図った方がよいと思います。例えば不登校問題も幼稚園や保育園から問題がある子が小学生，中学生になっても不登校となるということがあるため，横や縦のつながりが必要だと感じました。

（阿部委員）

とりまとめが大変だったと思います，ご苦労様です。資料の文言については特にありません。6ページに記載のある，子ども像は市の様々な部署で検討しています。本方針では，学校教育においての子ども像として表記されているため，柏市が目指す子ども像と示すことに，若干違和感がありました。

また，本審議会においては，課題になっている不登校児の対応や，多様性が受け入れられている社会での教育内容等に切り込んでいくと思っておりましたが，老朽化が進む学校施設のあり方や，学校規模が主であったと個人的には受け止めております。

学校規模は，エビデンスも交えて，国のガイドラインと異なる基準としたことに言及した方がよいのではないかと思います。

なお，ふるさと協議会として考えると，地域があって後から学校ができるという認識でいます。学校規模の標準化のために学区を変更するということは，既に組織として機能している地域にとって大きな影響があります。学校規模の標準化を担保することは重要ですが，防災や福祉，学校とそれぞれの分野で地域区分が異なる現実を踏まえて，学区の変更を検討する際は慎重に考えてほしいと思いました。。

(古橋委員)

方針策定の目的のところ、現在の社会として「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」について言及していますが、この方針を5年後にみたときに、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」を現在の社会ととらえてよいのかが気になりました。ウェルビーイングが目指す子ども像に入っているのが良いと思いました。

(神田委員)

良くまとまっていると感じました。小中連携だけでなく、幼保こから高校までの連携についても触れられているし、柏市の目指す子ども像が強調されていて良いと思いました。

柏市で生まれて、ずっと柏市で過ごしていますが、子どもころから地域連携が図られているなと感じていましたので、それが取り上げられているのも良いと思いました。

小中一貫の学校ができる流れとなっていたり、変わろうとしている中で、皆さんが不登校などを多く心配しているように感じていましたが、審議会の中でも不登校の問題を取り上げて、話し合ってきましたし、資料も詳しくまとまっていると思います。

親の立場からすると、基本方針を読むことで、この市で安心して子育てしていきたいなと明るい希望が持てる内容になっていると感じました。

(2) 資料編について

(天笠会長)

資料編についてお気づきの点がありましたらお願いいたします。膨大なデータがつまっています。ここから何を読み取ってどうするか、そのときに本編が重要になってくると思います。

(入道委員)

25 ページの通学路について、「自転車通学については、現在、通学距離 3 km 以上の場合、学校長の判断により、一部の中学校で認められています」という記述がありますが、通学距離 3 km は正しいですか。

(事務局)

2 km 以上もあれば 3 km 以上もあるということなので、表現を見直します。

(阿部委員)

地区別の児童生徒数があるので、地区別の人口が入っているとうれしいと思いました。

(天笠会長)

24 ページに学校の光熱水費等がありますが、悩ましいテーマになっています。グラフは右肩上がりの傾向になっており、関心を持つべきデータの一つだと思います。

(3) 地域カルテについて

(天笠会長)

地域カルテについてはいかがでしょうか。この膨大で貴重なデータをまとめた意図や狙いはどう理解したらよいですか。

(事務局)

地域カルテとして整理した理由は、教育委員会が保有する様々なデータや歴史をアーカイブ化しておくと同時に、保護者や地域の方たちと共有したいと考えたためです。今後はこれらのデータを学校運営や学校再編の基礎資料にしたいと考えています。

(天笠会長)

今の説明が表紙の裏側に書いてありますが、それをもっと丁寧に記載したほうが良いと思います。将来の方向性等を検討する際にデータを活用してください、というようなメッセージを伝えても良いように感じます。

(中田委員)

管理職だけでなく教員とも共有したい大変貴重な資料だと実感しています。地域・保護者とも共有することで、次の姿と一緒に考えるきっかけになると思いますので、可能であれば今のメッセージを

追記いただいてもよいのかなと思います。

（天笠会長）

10年後20年後を示して、学区の将来の姿を共有するためのデータの提供といったメッセージが込められているはずなので、丁寧にその意味を伝えることも必要だと思います。

改めて、全体を通して何かございますか。

（寺本副会長）

ESDや持続可能な社会の担い手に関する要望を反映していただいたと思います。次期学習指導要領の改訂に向けて、自ら学びを調整する力の重要性が内閣府の人材育成の政策の中でもこれまで言われてきていて、学校教育でも本腰を入れて実施していくという流れが出てきています。国際的な教育課題の動向を見ても、主体性の育成が全面に出されていて、そのための教育のことを、国際的にはイノベティブ教育、日本では探究と表現されています。そのため、次期学習指導要領の方向性も踏まえて、「探究」という言葉を、子どもの主体の学びに記載されている「自らが主体となって様々な困難に乗り越えていくことができる資質・能力」と関連付けて入れていただければと思いました。

（天笠会長）

副会長の大切なご意見だと思います。1人当たりの生産性を示す指標がよく問題にされますが、先進諸国の中でも高い位置を占めていたわが国の数値は低下してきており、追い越す国もあります。経済指標と生活の豊かさが重なると思い重視してきましたが、今は、豊かさをどう捉えるかというのが大きなテーマとなっており、いろいろな視点で豊かさを見つめよう、捉えようとしています。今審議していることも、それを模索・追及しているのだと思います。誰一人取り残さないといった文言の中にも入ってきているのではないかと思います。ESDを私なりに理解すると、持続可能性という1つの定義であり、この先続いていくのか、続けていくためにはどうしたらよいのかといった問題意識もこの答申にはしっかり込められていると思います。

入道委員が発言されたコミュニティスクールをこの先どう続けていくか、という問題意識そのものも、今の我々にとっての豊かさを追求することの1つの指標としてあるのではないかと思います。

また、もう1つの指標としては、ウェルビーイングが込めているものになると思います。そのような意味で基本方針は、柏市の10年後、20年後を見つめた時の学校教育の核であり、これを核にしながらどのような豊かさをこの地域において実現していくのかという1つの定義、方向性が盛り込まれていると思います。不登校対応とか、学習のあり方とか、具体の1つ1つを方針に挙げながらそれを求めていこうとする方向性として、本方針の本編や資料編、地域カルテをまとめさせていただいたのだと思います。全体を通じてのご意見はここまでとさせていただきたいと思います。

(4) パブリックコメントについて

(天笠会長)

パブリックコメントは、本日資料として提示したこの3編について市民に意見を聞くということでしょうか。

(事務局)

その通りです。本編、資料編、地域カルテについて市民へ意見を聞くこととしています。

(天笠会長)

他に意見はありますか。無いようなので、本日予定していた審議について終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。

8 傍聴者

9 名

9 配付資料

(1) 次第 令和6年度第5回柏市教育政策審議会

(2) 【資料1】 柏市教育政策審議会委員名簿

(3) 【資料2】 席次表

(4) 【資料3】 令和6年度第4回柏市教育政策審議会会議録

- (5) 【資料 4】 柏市教育政策審議会の進行スケジュール（予定）
- (6) 【資料 5】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
（答申第 2 案）
- (7) 【資料 6】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
資料編（答申第 2 案）
- (8) 【資料 7】 柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針
別冊 地域カルテ（答申第 2 案）
- (9) 【資料 8】 主な修正事項比較一覧